



2014-15年度 国際ロータリー第2790地区

職業奉仕月間・米山月間

ガバナ一月信

VOL. **4** 2014年10月号

COPY FOR MEMBERS
発行/2014年10月1日



米山学友会バーベキュー大会 (東京情報大学キャンパスにて 2014/9/6)

月信も4号を数え早、今年度の3分の1を終えました。連日、公式訪問をさせて頂いておりますが、どのクラブでもご丁寧な対応を頂き、クラブ協議会で交わされる関連なご意見を伺う時などこの上ないひと時です。ロータリー論に正解などあるはずも無く、その熱い想いがロータリーの原動力になるはず。今月は職業奉仕 (Vocational Service) と米山月間です。職業奉仕に関しては3大セミナーを通し「武士の刀」という浅慮な表現を用いて私の信条を申し述べました。地区組織でも特別の意味を持って位置づけました。そこで今月は会長の皆様にお願ひがあります。それは心を穏やかにして十分な時間をかけゆっくと決議23-34をお読み頂きたいのです。ご存じの様にいわゆる「決議23-34」は正式には「社会奉仕に関する1923年の声明」(1923 Statement on Community Service) と呼ばれ職業奉仕とは別物の様に思えますが私はこの条文の中に私達ロータリアンの取るべき姿勢即ちロータリーがロータリーである根源の「職業奉仕」が織り込まれていると考えています。第一条には自分のための利己的欲求と他人に施すサービス (Service above self と呼ばれる哲学) という矛盾について He profits most who serve best という具体的実践論を使い二つの奉仕理念を提示しています。第二条はクラブの役割、第三条はRIの役割、第四条では理論だけではなく、実

践論の必要性と注意事項、第五条はクラブ自治権、そして最後第六条でクラブが実施する上での指針が述べられています。Community Service とは単に社会奉仕と訳してはならない奥深いものであると感じ取って欲しいのです。別紙にて「決議23-34」を添えました。今、平和を考える時、多くの問題は日本を取り巻くアジア諸国、とりわけ隣国と深い関連を持っています。尖閣、慰安婦、拉致、防衛、どれをとっても簡単には解決しそうにもありません。「日本の生きる道は平和しか無く、平和を願う日本を世界に理解して貰うには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を迎い入れ、彼らに真の日本の姿勢や思いを理解して貰うしか無い。彼らはやがて祖国へ戻りきって日本との懸け橋になってくれる。」との思いから東京クラブが米山梅吉氏の遺徳より設立したのが米山記念奨学制度です。創立から62年経つ現在、私達が最も大切にすべき国際奉仕事業だと思ひます。なお、記念館自体が昨年の伊豆大島台風で被災し修復と建物の営繕及び維持管理費用に困難をきたしておるそうです。米山記念奨学会への寄付とは別に記念館への500円寄付にもご協力下さるようお願いいたします。米山支援をおこなうのはいつ? 今でしょ。

国際ロータリー第2790地区
2014-15年度ガバナー

宇佐見 透
(千葉幕張RC)



ロータリー米山月間によせて

ロータリー米山記念奨学委員会
委員長 石田 善一
(市川南RC)

10月は米山月間の月です。

平素より会員の皆様にはロータリー米山記念事業に対し、暖かな理解とご協力に対し感謝申し上げます。

この、委員会の主旨は海外からの留学生の支援を行う為に、会員の方々の暖かな理解の元支援を頂き運営を致しております。

ロータリー米山記念奨学委員会のあゆみについては、皆様はすでにご理解を頂いておりますが、1952年東京ロータリークラブが発表した事が推進の基礎ですが、日本のロータリーの創設者・故米山梅吉翁の偉業を記念して後世に残るような有益な事業を残す事からの思いです。

その後、数年の間に日本全国共同事業として発展し日本のロータリー独自の活動となりました。

その心は、日本が再び戦争と言う悲劇を起こさない為、優秀な学生を日本に招き国際親善と世界平和に寄与したいという当時のロータリアンの強い願いがありました。

将来の日本と世界を結ぶ「懸け橋」として国際社会で活躍をするロータリーの良き理解者となる人材育成をする事が大きな目標です。

このロータリー米山記念奨学事業は現在民間の支援団体としては、国内最大の規模を誇り、他の支援団体とは基本的に異なった特徴があります。

一つには、世話クラブ・カウンセラー制度です。

奨学生がお世話をして頂くクラブ・カウンセラーとの出会いで、日本の多くの文化・風習を学び、触れ合うことでより多くの理解が得られ、将来の人生設計を図れると思います。

多くの出会いの場に接する機会が与えられ、多く

の方々の触れ合いにより人との分かち合いと言う、人との心が育ち人生の成長が図れる機会が育成されております。

その、心は奨学生としての期間だけではなく、その後学友会として活動の機会が与えられ永遠にロータリー精神が宿る事になります、自国に帰っても地域社会は元より国際社会での活躍する基礎に育ちます。

現在までに、ロータリー米山記念奨学生は世界121か国と地域に奨学生数は1万8000名の実績があります。

今年度は、全国での奨学生の受け入れ人数は700名、当地区では23名の奨学生を世話しております。

残念にも、ロータリアンの減少による支援金額の不足により、以前の奨学生の数を維持出来ない状態から受け入れ数が減少しております。

地区委員会では、機会ある毎に会員の方々に支援をお願い致しております。

支援は、普通寄付と特別寄付の2種類の方法で行われております。

今年度両方合わせて、お一人15,000円の支援をお願いしております。

何卒宜しくお願い致します。

少しでも支援金額が増えることで、奨学生の受け入れ人数が増える事になり、多くのクラブが世話クラブとしてカンウセラーとして国際貢献の体験される機会が持てます。

会員の中には、近年近隣諸国との問題に伴い支援を見送る方が見受けられます。

一人でも多くの奨学生との出会い、触れ合い、分かち合いをして頂き、有能な学生により多くの勉学の機会を与えて上げて下さい。

彼らは、一生懸命で勉学に励んでおりますから卓話にお声をかけて頂きたく思います。

今後ともご理解・ご支援を宜しくお願い致します。



職業奉仕月間に因んで

職業奉仕委員会
委員長 土屋 利夫
(大原RC)

お店はお客様のためにある。

まじめに商売をしてこられた人にしてみれば、何をいまさら、と感じるのではないのでしょうか。

「CS」カスタマーズ・サティスファクション(顧客満足)。常に意識されている言葉だと思えます。そもそも顧客の満足を得なければ、どんな商売も成り立つ筈がありません。どんなに売れないと嘆いてみても「あの店は売れなくて困っているそうだ。気の毒だから行って買ってやろう」などという客は一人もいません。お客様あっての店であり、メリットがあるから来てくださるのです。自社の数字づくりの倫理が先行し、顧客不在のモノづくりから、お客様毎にポイントを置く企画や商品の検討がされたものです。

お客様は常に正しい。

往々にしてお客様の苦情はこちらの説明不足に原因があるように思われます。時には無理難題を言われても、理屈や言い訳ばかり言わず、「謙虚に耳を傾けよ！」の意でしょうか。

信用第一。

「暖簾を守る」「暖簾に生命をかける」など、暖簾は商人の魂であり、信用の象徴とされてきました。しかし、今の若い人達に「のれん」とはショップブランドとかストアブランドと理解されていたならその大切さも理解されましょう。そして、信用に留まらず、そこに人気、評判が加わった時、本当の強さがくるものと思えます。私達はこの三つの、目に見えないものを常に念頭に置きながら、仕事をしていく必要があると思えます。

先の見えない不透明な時代は、不安な時代でもあります。しかし、どんなに霧が深くても、足元だけは見える筈です。時代のキーワードの一つに、メセナ(文化活動)というのがあります。地域に於いて、良い会社であり続けるために、文化活動を支援する

事で社会への貢献をすべきだという考え方です。

幸いにも、きものは日本の代表的な文化商品です。この「きもの」を扱う私は一枚でも多く販売し、一人でも多くの人に着ていただく努力する事が、即ちメセナに通じると言えましょう。過去に「ゼロ成長でも利益が出る会社」を目指さなくてはいけない。数量的な増加や、右肩上がりの成長ばかりを望む企業は自滅するしかないという時、売り焦らずじっくりと、中身のある商売を心がけよ。といわれた時代があったと聞いています。「商いとは、物とお金の交換である」という余りにも分かりきった原点を、もう一度再確認する必要もと思えます。そして、ある社内報に、「企業は社会に貢献し、地域に密着し、トップと社員がいつも一体である事で発展していくもの。額に汗して、一つひとつ引き上げていくという、地に足の着いた実業の部分を怠ってはならない」。本業重視路線の充実により収益力を高め、現実を直視する勇気と社員の意識改革を迫る情熱が正に商いの原点を考える第一歩であると思えます。

言うまでもなく、会社が大きくなってどんなに売上げが上がってきても、文字通り「小さく売るのが小売業」であり、少額のお客様も大切に、その一つひとつの集積が、結果として大きな数字になる事はあっても、額に汗することなく、安易に大きな数字を迫ったら、足元をすくわれるのは当たり前と言えるでしょう。小売業は立地産業であり、お客様の来やすい場所に店を張って待つという、いわば植物的企業と言えましょう。

もちろん今の社会では、単に待ちだけの「蜘蛛の巣商法」でなく、「ミツバチ商法」も取り入れねばなりません。基本は、お客様に来ていただける魅力ある店づくりが大切である。いまさら言う事でもありません。

職業人としてのロータリアンの心構えを、ロータリー倫理基準から具体的に記述したものが「ロータリー倫理訓」だとすれば、それをロータリアンのみならず一般の職業人にも理解できるように、簡潔かつ的確にまとめたものが「四つのテスト」と言われています。職業奉仕の原点は「四つのテスト」を日常取り込んで実際に行動する事にあると考えます。



広報公共イメージセミナーを終えて

広報公共イメージ委員会
委員長 金本 元章
(柏西RC)

当委員会は、本年度より新設されロータリーの公共イメージと認知度の向上を図るべく、今までのクラブ奉仕委員会から独立し新設された委員会であります。委員会では、ロータリーとはどのような団体で、何をしているのかを広く伝えるため、

- 1) 地元メディアを最大限に活用する。
- 2) 各クラブの社会奉仕活動などをメディアで紹介すること。
- 3) 地域の方々に、もっとロータリーの存在を知って貰うよう働きかけること。

などを推し進める活動に取り組んでいます。

セミナーは、公共イメージと認知度の向上に資すると共に、各クラブの活動状況を相互に交換する支援を主たる目的として開催いたしました。当日は、朝から猛暑日となり、8月に入って最初の日という事でしたが宇佐見ガバナー、櫻木ガバナーエレクトのお二人をお迎えし、各クラブより広報担当者87名の参加を頂き、千葉市中央図書館（生涯学習センター）において無事開催することができました。

第一部では、ロータリーの友・編集長 二神典子氏（築地RC）をお招きして「ロータリーの公共イメージ」をテーマに講演を頂きました。

RIで今、特に進めているのが、「イメージとブランドの認知を調和させる」という事です。ロータリアンでない方が、いったいどのようなことからロータリーに対するイメージを持たれてるのでしょうか。ロータリーに良いイメージを持っていただくためには、まず行動する事が必要です。しかし、そうした行動が「ロータリー」という名前に結びつくためには、ロータリアン個人あるいは各地区のクラブから発信された情報が「ロータリー」というキーワードでくくれるようにしなければなりません。これがブランディングとういうことです。

その際大きな武器となるのが、「ロータリーの歯車

の徽章」です。ですから、ロータリーの会合に行くときだけでなく、いつもロータリーバッジを身に付けていただきたいと思います。（ロータリー友・編集長二神典子氏）

「広報活動は、まずロータリンから始まります」。ロータリアンのお一人おひとりの挙動動作が、ロータリーの宣伝活動につながる。言うならばロータリアンの生き様そのものが、ロータリーの宣伝につながるからであろう、と理解しました。（参加者の声・ガバナー補佐 川原勝壽）

第二部では、今年度のテーマである「Light Up Rotary（ロータリーに輝きを）」を実践するにあたりロータリーを輝かせる方法は数多くありますが、ホアン会長はロータリーがどのような活動をしているのかを地域社会の人々に知ってもらえるよう、「ロータリーデー」を開催されることを願っています。地域社会の人々に広報活動をする担当者にとって、パブリシティ活動が鍵となります。今回は、そのパブリシティ活動の基本中の基本である、プレスリリースの作り方をスクリーンにてガイダンスを行い、マスメディア（報道機関）向けに発表するフォーマットを製作し活用できるようにいたしました。クラブの広報担当者にお使い頂けるかと思えます。また、「My Rotary[※]」のアカウント登録の方法が解りづらいという声を聴き、セミナー会場内にて具体的な手法をプレゼンテーション用として作成した動画を紹介いたしました。詳細につきましては、地区のホームページにてご覧いただけます。

※（My Rotaryへ登録するとロータリーの活動や地区、クラブの運営に必要な情報やデータを随時入手できます。「ロータリー・クラブセントラル」は寄付目標、会員増強目標の設定、会員情報（入退会更新）、半期報告書、人頭分担金の請求書発行等、地区、クラブ運営にとって不可欠なオンラインシステムです。）



『目指せ、2790!』 会員増強・退会防止セミナー

会員増強・退会防止委員会
委員長 並木 鷹男
(千葉RC)

ロータリーの存続を掛けた会員増強には思い切ったイノベーションが必要である、皆さんには大胆な発想の転換が求められている、身の引き締まる中村パストガバナーのご挨拶から、会員増強・退会防止セミナーは幕を開けた。

宇佐美ガバナーはこう訴える。会員増強・退会防止は今、最も重要な課題である。又、ロータリーをもっと世間に知らしめる広報活動にも注力し、認知度を高めて幅広い会員をロータリーに惹きつけた。皆さんがロータリーの行く末を握っている、本日の成果をクラブに持ち帰り会員増強にご尽力を願いたい、と。

日本のロータリーは、1997年の13万人から現在は88,945人と実に17年間で4万人、32%減少した。平均すると2,400人、毎年地区が一つ消滅しているほどなのだ。第2790地区も例に漏れず1997年に4,200人いた会員は、直近6月末で2,721人と矢張り35%減少した。

この現実を踏まえ、このセミナーが机上の空論に



終わらぬよう、会員増強・退会防止に成功した5つのクラブの、特に真正面かて頂き、川

ら取り組んだロータリアンに集まっ名副委員長をコーディネーターとして、成功事例や失敗事例など、生々しい本音を語って貰った。

100%例会で注目される市川RCの陶山増強委員長は、他の団体にはない職業奉仕のメリットを増強に繋げたい、又、100%例会は、入院した会員が看護師に付き添われて例会に出席したことから伝説となり、クラブの神話として今でも語り継がれている。

60名から14名まで減少した会員を5名増強して19名まで復活させた大原RCの浅野会員増強委員長は、

地域の他団体に熱心に声を掛け、又、経済的に豊かなリタイア層にターゲットを当て増強を果たした。

千葉南RCの北原増強委員長は、98名から34名まで減少した会員を、創立50周年を機に50名の会員で迎えようと全会員を増強委員に仕立て上げた。入会金の減額までも試行して遂に51名で50周年を迎えることが出来たと、熱く語った。

会員増強をクラブの活性化に繋げている千葉西RCの西川パスト会長は、誰でも参加できるオープン例会の開催や、家族例会にも一般の方を招いてロータリーを知って頂き、時間を掛けて入会を勧めている。オリエンテーションを充実させて会員の理解度を高め、例会の席順も孤立しないように様々な工夫を凝らして退会を防止している。

地区最大の会員数を擁する成田コスモポリタンRCの岩澤前会員増強委員長は、創立20年の若いクラブだが、会員数で地区No.1を目指し、全会員がチームを組んで会員増強を推進した。

最後にコーディネーター川名副委員長から、この2790地区の全てのロータリアンが其々の地域で、其々の立場で自らを高め、世間に良い影響を与えていけば、必ずや地域社会から認知され、それが会員の増強に繋がるのではないかと、纏めた。

その後、休憩を挟んで24テーブルに別れ、テーブルディスカッションが開始された。身近な、切実な課題として白熱した議論が戦わされ、選ばれた6テーブルからの発表があった。

最後に研修リーダーの崎山パストガバナーから総評を頂いた。

会員数は経済の変化に比例し、世界経済が停滞し始めた頃から120万人のロータリアンは増加を止めた。ロータリーは、信頼し合える仲間の集いの場、仲間は多いほうが良いが焦ることはない。職業奉仕の精神を忘れず、人間的な魅力を高めれば、その魅力に惹きつけられて仲間は増える。量も大切だが、質も大事。否、質が大事と言いたい。今日、200名の会員が真剣にディスカッションをしている姿を拝見し、これなら大丈夫だと確信した、との総評を頂き、盛会裏にセミナーの幕を閉じた。

最後に本委員会で、コーディネーター役を引き受けてくれた川名副委員長、司会進行を務めてくれた高橋委員、写真撮影を担当した瀧委員に感謝申し上げます。



ガバナーエレクト就任のご挨拶

<エレクトになるまで>

国際ロータリー第2790地区

2014-15年度ガバナーエレクト 櫻木英一郎

(千葉RC)

この度、ガバナーエレクトを拝命し、身に余る重責に緊張しております。

今まで毎年ガバナーノミニーが決定し、その決定通知を受けても「2年後はこういう人がガバナーか・・・。知らない人だのご苦労様なことだ、いずれ公式訪問や地区大会で顔を見る機会があるだろうな」程度にしか思っていませんでした。ハッキリ言って、大変遠い存在であったそのガバナーノミニーに私になろうとは思いませんでした。

ロータリー年度では昨年度となる今年の3月、ノミニー就任の打診を受けました。思いもかけぬこと故に幾度かの押し問答を経、その間に事態も一転二転し、ノミニー受諾止むなしの即決の決断を迫られたのが3月末でした。それから一ヶ月半、自クラブの理事会と例会で承認を取り、受諾承認の書類に私がサイン、クラブの代表権者の幹事がサイン、時のガバナーのサイン、そしてその書類がアメリカに送られてRI会長がサイン、書類返却後に地区内への通知、そして告知期間と、色々な段階を経てノミニーが最終的に確定したのは5月中旬でした。

地区内部でも、地区への出向経験もガバナー補佐経験もないノミニーを誕生させるには相当なる調整があった事と存じます。加えて現職のクラブ会長をノミニーにするにはRIにも大変な根回しが必要であった事とも存じています。一人のノミニーを誕生させるのにこのような手順段階があった事を初めて知りました。

この間にもう一つ知った事は、ガバナー本番年度よりもエレクトの年が重要であり、しかも遥かに大

変であるということです。ガバナーエレクト専用事務所の設置、事務局員の雇用、地区活動の基本方針、活動工程表、組織、人事、そしてガバナー補佐予定者会議、更には三大セミナーの開催準備などなどです。

そして、更にはエレクトの一年の活動を見て学べべきノミニーの期間が一ヶ月半しかないという特殊な状況、大変な事態にいる事にも気づきました。

ロータリーはなぜ難解なのか？ 不易流行はどこまでが不易か？ ガバナーの候補が少ないのは何故か？ RIから地区に課せられたDLPの「心」は何か？ ロータリーの慣行の意義は？ ロータリーの解釈は？ 原点(原典)から何を考えるか？ 様々な疑問を抱きそれ等への答えを模索しながら次年度に備えたいと思います。

これからガバナーエレクトと言う立場で、10か月余りのノミニーとしての月日の不足を急遽取り戻すことは容易なことではありません。しかし、もう言い訳は許されません。私の微力と千葉クラブの総力を挙げて、2015～16年度のガバナーを全うする決意です。宜しくご理解の上、ご支援をお願い申し上げます。

文庫通信(324号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

地区大会講演 他

- ◎ 「80歳エベレスト登頂～希望の奇跡」 三浦雄一郎 2014 8p (第42回ロータリー研究会報告書)
- ◎ 「世界遺産としての富士山」 井上輝夫 2014 3p (米山梅吉記念館館報)
- ◎ 「違うことはいいことだ」 大宅映子 2014 4p (D.2580地区大会の記録)
- ◎ 「ピンチをチャンスに！」 東国原英夫 [2014] 11p (D.2790地区大会記録誌)
- ◎ 「グローバル時代の企業経営」 張 富士夫 2014 4p (D.2760地区大会記録誌)
- ◎ 「『お金の世界』から『いのちの世界へ』」 菅野典雄 2014 16p (D.2510地区大会記録誌)
- ◎ 「『顔が赤くなる人は酒を飲むな』って・・・!？」 岡村 健 2014 5p (福岡南RC月報)
- ◎ 「人間はいつ歳をとるのか」 牧田静二 1998 2p (月曜短信)
- ◎ 「天皇・皇后両陛下にお仕えして」 羽毛田信吾 2014 4p
(D.2600下伊那グループIM&会員セミナー報告書)

[上記申込先：ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15黒龍芝公園ビル3階 TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp> 開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

寄付者紹介 (敬称略)

ロータリー財団寄付 メジャードナー



渡邊 幸一
(鎌ヶ谷RC)



鈴木 秀承
(鎌ヶ谷RC)



宇佐見 透
(千葉幕張RC)



森島 弘道
(新千葉RC)



崎山 征雄
(習志野中央RC)

年次寄付 (マルチプル・ポール・ハリス・フェロー)



鳥飼三津男
(習志野RC)
9回目



林 正弘
(千葉港RC)
8回目



由川 久子
(習志野RC)
8回目



渡邊 幸一
(鎌ヶ谷RC)
6回目



水野 晋治
(柏西RC)
6回目



石井 賢徳
(習志野RC)
6回目



久保田 隆
(鎌ヶ谷RC)
5回目



高橋 宏資
(銚子RC)
5回目



石橋菊太郎
(成田RC)
5回目



椎名 博信
(習志野RC)
5回目



斎田 隆
(習志野RC)
5回目



石川 信昭
(鎌ヶ谷RC)
4回目



椎名 鏡一郎
(成田空港南RC)
4回目



富 一美
(成田空港南RC)
4回目



長塚 公毅
(千葉北RC)
3回目



内田 裕雄
(成田空港南RC)
3回目



伊藤 良
(富里R C)
3回目



相馬 榮作
(浦安R C)
2回目



皆川 隆
(鎌ヶ谷R C)
2回目



藤田 英司
(千葉港R C)
2回目



寒郡 茂樹
(富里R C)
2回目



杉山 芳夫
(習志野R C)
2回目



大久保愛子
(船橋西R C)
1回目



齋藤 逸朗
(成田空港南R C)
1回目



金島 弘
(銚子R C)
1回目



森 和夫
(習志野中央R C)
1回目

(ポール・ハリス・フェロー)



佐野 旭
(浦安R C)



鎗田 義徳
(千葉港R C)



行木 英夫
(成田空港南R C)

恒久基金 (ベネファクター)



森嶋 康長
(船橋R C)
11回目



日暮 肇
(柏西R C)
1回目

米山功労者



平山 金吾
(成田R C)
58回目



森島 庸吉
(船橋西R C)
55回目



相澤 友夫
(船橋東R C)
44回目



得居 仁
(松戸東R C)
13回目



森島 弘道
(新千葉R C)
11回目



鳥飼三津男
(習志野R C)
11回目



関口 宏
(松戸西R C)
10回目



日暮 俊久
(成田R C)
8回目



小川 賢
(成田R C)
8回目



石井 伸一
(鎌ヶ谷R C)
6回目



増田 裕
(千葉中央R C)
6回目



植草 一男
(千葉中央R C)
6回目



設楽 正行
(成田R C)
6回目



長濱 芳一
(鎌ヶ谷R C)
5回目



皆川 隆
(鎌ヶ谷R C)
5回目



大岩 將道
(銚子R C)
5回目



由川 久子
(習志野R C)
5回目



向後 雅生
(成田空港南R C)
4回目



樋口 宏次
(鎌ヶ谷R C)
3回目



平野 省二
(成田R C)
3回目



寒郡 茂樹
(富里R C)
3回目



高橋 徹
(鎌ヶ谷R C)
2回目



河合 直志
(松戸西R C)
1回目

新ロータリアン（敬称略）



安藤 弘美
（浦安ベイRC）
ホテル
7月2日入会



吉田 幸宏
（船橋RC）
商業銀行
7月22日入会



高田 洋志
（鎌ヶ谷RC）
ビルメンテナンス
7月3日入会



藤井 克典
（鎌ヶ谷RC）
不動産業
7月3日入会



飯嶋 孝明
（鎌ヶ谷RC）
弁護士
8月7日入会



鈴木 隆男
（船橋東RC）
証券業
7月3日入会



渡辺 信一
（千葉RC）
証券業
7月7日入会



木村 理
（千葉RC）
銀行
7月14日入会



飯沼喜市郎
（千葉RC）
清酒製造
7月28日入会



萩原 博
（千葉RC）
新聞発行
9月1日入会



林田 昌巳
（新千葉RC）
一般測量
7月30日入会



渡邊 圭介
（新千葉RC）
建築業
7月30日入会



白鳥 真
（新千葉RC）
生命保険業
7月30日入会



永岡 晃
（千葉中央RC）
土木工事
7月17日入会



畠山 忠
（千葉中央RC）
電気工事
7月17日入会



田沼 隆志
（千葉幕張RC）
医薬品
7月8日入会



村田 秀喜
（千葉若潮RC）
税理士
7月3日入会



太田 雅美
（千葉南RC）
普通銀行
7月25日入会



長澤 英樹
（千葉港RC）
建設設計
7月2日入会



田中 剛
（千葉緑RC）
サービス業 ゴルフ場
6月1日入会



麻生 博章
（木更津RC）
商業銀行
7月31日入会



伊藤 隆夫
（富津中央RC）
総合商社
8月1日入会



山中 恵
（木更津東RC）
都市ガス及び住宅設備小売
7月2日入会



山本 孝彦
（袖ヶ浦RC）
石油精製
8月4日入会



御子神洋一
（館山RC）
商業銀行
8月6日入会



小林 建国
（茂原RC）
飲食業
7月10日入会



今井 滋則
（茂原RC）
土木建築
7月17日入会



中川 雅晃
（茂原RC）
建築
7月17日入会



久保田 基
（茂原RC）
レストラン
7月17日入会



石井 直人
（茂原RC）
商業銀行
7月17日入会



渋谷 章男
（東金RC）
銀行
8月19日入会



山岸 満佳
（茂原中央RC）
建築工事業
7月1日入会



宮間 文夫
（大網RC）
スポーツ用品販売業
7月1日入会



小林 昭弘
（銚子RC）
刃物
7月2日入会



富永 泰夏
（銚子RC）
液化ガス小売
7月9日入会



木内 健一
（旭RC）
工務店
8月8日入会



飯田 貴之
（銚子東RC）
貨物自動車輸送
9月2日入会



鈴木 保雄
（銚子東RC）
総合病院
9月2日入会



関 浩
（佐原RC）
地方銀行
8月7日入会



丸田 忠昭
（佐原RC）
商業銀行
8月7日入会



香取 正夫
（佐原RC）
生命保険
8月7日入会



高崎 渡
（小見川RC）
損害保険
8月6日入会



後藤 敦
（成田RC）
空港ホテル
7月18日入会



高橋 正
（成田RC）
地方、外国為替
7月25日入会



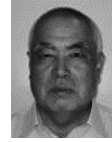
小坂 裕巳
（成田RC）
地方、商業銀行
7月25日入会



高橋 光二
（白井RC）
外構土木
7月14日入会



石田 信昭
（白井RC）
建築・建具
7月28日入会



米井 博文
（白井RC）
旅客運送事業
8月4日入会

	長谷川浩一 (富里R C) 地方銀行 7月1日入会		丸 昌彦 (成田コスモポリタンR C) 信用金庫 7月23日入会		張ヶ谷政喜 (柏R C) 造園業 7月9日入会		杉原 浩 (柏R C) 神経内科医 7月9日入会
	高橋 賢 (柏R C) ホテル 7月9日入会		薦岡 利宏 (柏R C) 商業銀行 7月16日入会		笹森 幸司 (習志野中央R C) 医療事務 7月3日入会		近藤 善信 (松戸R C) 電気機器販売 7月9日入会
	日暮 幸信 (松戸R C) 福祉用具貸与・販売 7月9日入会		鳥海 浩幸 (松戸R C) 地方銀行 7月16日入会		飯塚 正春 (松戸R C) 鉄道輸送 8月27日入会		杉浦 誠 (松戸R C) 葬祭業 8月27日入会
	鈴木 豊 (松戸東R C) 工作機械 7月4日入会		高松 幸司 (松戸東R C) 電気工事 7月4日入会		沖 昌彦 (松戸北R C) 測量士 8月19日入会		小松崎光一 (松戸中央R C) 商業銀行 7月17日入会
	上山 康子 (松戸中央R C) 証券業 7月17日入会		長江 曜子 (松戸中央R C) 石材製品小売 8月7日入会		稲葉のりひさ (松戸西R C) 建築用資材小売卸 7月2日入会		尾形 和則 (松戸西R C) 地盤改良地盤調査 7月2日入会
	福田 康宏 (松戸西R C) 生命保険 7月9日入会		宮野 守 (松戸西R C) レストラン 7月9日入会		藤井 隆 (野田東R C) 電気器具販売及び電気工事 7月4日入会		栗原 利夫 (野田セントラルR C) 司法書士 9月1日入会

(公財)ロータリー米山記念奨学会ニュース (ハイライトよねやま174号)

～今月のトピックス～

- ・寄付金速報 — 10月の米山月間に向けて —
- ・理事会・評議員会開催報告 — 役員改選で新理事長就任 —
- ・ロータリーデーBBQ大会を開催【第2790地区学友会】
- ・まもなく米山月間資料がクラブに到着します！

【おしらせ】

海外米山学友会総会【韓国・台湾】日程のご案内

トピックス詳細につきましては、下記アドレスにてご覧ください。
http://www.rotary-yoneyama.or.jp/summary/pdf/highlight174_pdf.pdf

《今月のピックアップ記事》

理事会・評議員会開催報告 — 役員改選で新理事長就任 —

第八回理事会が8月21日に、また、第四回定時評議員会が9月5日に、それぞれ都内ホテルで開催されました。

(主な議題は、ハイライト本文をご覧ください)

また、評議員会での理事選任を受けて、決議の省略による理事会(書面決議)を開催し、以下の役員候補者が承認されました。

理事長：小沢一彦氏(2780)

副理事長：三井章義氏(2600)・栗林英雄氏(2740)

常務理事：武田和夫氏(2800)・塙東男氏(2820)・市川伊三夫氏(2750)・若林紀男氏(2660)

名誉理事長：板橋敏雄氏(2550)

理事会および評議員会終了後には、それぞれ退任される理事・監事、評議員への感謝状贈呈を行いました。また、両会議において、任期満了で理事長を退く板橋敏雄氏から7年間の思いのこもった最後のごあいさつを頂きました。評議員会では、新理事長に就任する小沢一彦氏から板橋敏雄氏に感謝状が贈呈されました。


R I 第2790地区 (千葉) 2014年8月出席・会員数報告

分 区	クラブ名	出席率 %	例 会 数	会 員 数				
				7/1	女	当 月	女	増 減
第1分 区	市川	100.00	3	39	0	40	0	1
	市川東	100.00	3	41	0	41	0	0
	市川南	79.17	3	17	2	17	2	0
	浦安	83.30	4	33	0	36	1	3
	市川シビック	89.68	3	34	0	35	0	1
	浦安ベイ	79.17	3	15	0	16	0	1
第2分 区	船橋	88.41	3	23	0	24	0	1
	船橋西	89.25	4	41	5	41	5	0
	鎌ヶ谷	90.00	3	26	2	29	2	3
	船橋東	89.13	3	28	2	29	2	1
	船橋南	91.11	3	20	4	20	4	0
	船橋みなと	77.62	3	20	5	20	5	0
第3分 区A	千葉	84.00	3	66	1	70	1	4
	新千葉	82.05	3	43	0	46	0	3
	千葉西	74.73	3	63	5	64	5	1
	千葉中央	84.16	3	34	0	36	0	2
	千葉幕張	68.47	3	37	3	38	3	1
	千葉東	76.80	4	31	4	33	4	2
第3分 区B	千葉南	69.50	4	49	6	50	6	1
	市原	65.08	3	42	2	43	2	1
	千葉港	68.00	3	26	1	27	1	1
	市原中央	82.79	3	50	2	49	2	△1
	千葉北	60.87	3	23	2	23	2	0
	千葉緑	60.26	3	26	3	26	3	0
第4分 区	木更津	80.40	3	34	3	35	3	1
	上総	68.52	3	18	0	18	0	0
	富津	84.38	4	14	0	16	0	2
	富津中央	88.90	4	24	1	25	1	1
	木更津東	91.22	3	40	0	41	0	1
	君津	99.15	3	39	1	42	1	3
	袖ヶ浦	92.42	3	21	3	22	3	1
	富津シティ	82.20	3	14	1	15	1	1
第5分 区	館山	88.60	3	59	3	60	3	1
	鴨川	82.92	3	35	7	34	7	△1
	勝浦	90.97	4	36	5	36	5	0
	千倉	64.00	3	10	1	9	1	△1
	鋸南	90.47	3	14	1	14	1	0
	館山ベイ	72.54	3	20	0	20	0	0
第6分 区	茂原	90.31	3	57	3	62	3	5
	東金	81.53	3	21	1	22	1	1
	大原	77.50	3	19	3	19	3	0

分 区	クラブ名	出席率 %	例 会 数	会 員 数				
				7/1	女	当 月	女	増 減
第6分 区	大多喜	90.46	3	7	1	7	1	0
	成田空港南	84.95	3	35	0	35	0	0
	茂原東	90.00	3	22	2	22	2	0
	茂原中央	80.95	3	14	2	15	2	1
	大網	78.89	3	29	1	30	1	1
	東金ビュー	64.00	3	25	1	25	1	0
第7分 区	銚子	82.54	3	42	4	44	4	2
	旭	78.40	4	43	2	44	2	1
	八日市場	83.50	3	40	2	39	2	△1
第8分 区	銚子東	82.49	3	39	2	39	2	0
	佐原	77.80	3	44	0	47	0	3
	多古	79.49	3	14	0	14	0	0
第9分 区	小見川	89.40	3	21	0	22	0	1
	佐原香取	81.34	4	27	0	27	0	0
	成田	89.25	4	66	1	64	1	△2
第10分 区	八街	85.19	3	30	1	30	1	0
	印西	93.41	3	24	0	24	0	0
	白井	82.80	3	17	0	20	0	3
	富里	77.37	3	27	0	28	0	1
	成田コスモポリタン	69.54	3	70	0	70	0	0
	柏	83.70	3	49	9	53	9	4
第11分 区	我孫子	74.33	3	26	1	26	1	0
	柏西	85.59	4	59	4	59	4	0
	柏東	100.00	3	28	3	29	3	1
	柏南	81.30	3	32	5	32	5	0
	習志野	86.39	3	28	1	28	1	0
	八千代	80.75	4	46	0	48	0	2
第12分 区	佐倉	70.59	3	17	2	17	2	0
	八千代中央	87.10	3	27	0	28	1	1
	四街道	97.17	3	25	3	25	3	0
	習志野中央	71.92	3	48	5	49	5	1
	佐倉中央	66.66	3	18	3	18	3	0
	松戸	82.27	3	56	0	61	0	5
第13分 区	松戸東	95.53	4	48	0	49	0	1
	松戸北	73.72	4	37	0	36	0	△1
	松戸中央	91.60	3	31	1	34	3	3
	松戸西	82.14	3	24	0	28	0	4
第13分 区	野田	80.60	3	55	5	55	5	0
	流山	83.33	3	16	4	16	4	0
	野田東	77.34	4	31	0	32	0	1
	流山中央	79.40	4	22	0	22	0	0
野田セントラル	72.22	3	24	0	24	0	0	

クラブ数	84RC	2014年7月1日	地区会員数	2,714人	当月平均出席率	82.32%
		2014年8月末日	地区会員数	2,880人	増減	+74
		2014年7月1日	地区女性会員数	149人	女性会員増減	+4
		2014年8月末日	地区女性会員数	153人		

物故会員 (敬称略)

	村松 武郎 (千倉RC) 逝去日: 2014年8月14日 (享年84歳) 入会日: 1966年1月7日 ロータリー歴 2000-01 クラブ会長 2007-08 クラブ会長 2010-11 クラブ会長 2014-15 クラブ会長
---	---

	江波戸 達郎 (八日市場RC) 逝去日: 2014年8月14日 (享年65歳) 入会日: 1996年2月8日 ロータリー歴 1998-99 P.H.F 2010-11 米山功労者
---	--

10月のロータリーレート
106円

第2790地区内 クラブ バナーの由来

千葉南ロータリークラブ

千葉市の南部、当クラブの地域内に大蔵寺というお寺があります。

この寺は、今から約400年前の永禄3年に建設されたものです。

この寺の境内は、かつては鬱蒼とした森で、寺の出来た頃から無数のカワ鷯が住み着いたところから「鷯の森」と呼ばれていました。

日本国内のカワ鷯群生地は、青森県猿賀神社の境内、愛知県知多半島の「鷯の山」と千葉県「鷯の森」の3ヶ所で、いずれも天然記念物に指定されています。

かつては、5万羽も住んでいたといわれる「鷯の森」も世の中が開けるにしたがって鷯の数が激減し、今日では一羽の姿も見ることが出来なくなりました。

当クラブのバナーは、「鷯の森」をテーマとし、日展評議員・青木滋芳氏に依頼して作ったものです。



市原ロータリークラブ

歴史と文化遺産の豊かさを誇り、且つこの半世紀で産業都市として大きく躍進した市原市。出来るだけこれ等の要素をデザインするに当り、伝承すべきものを探り、且つユニークで創造的な発想をもってこれをかたちとして表現したつもりです。



大多喜ロータリークラブ

大多喜町は上総大多喜城本丸跡地に城郭様式の県立博物館が開館以来(1975.09.10)、大多喜町のイメージを城と溪谷の町としています。

大多喜城と溪谷に、バナー作成当時春のレンゲ祭りで賑わったレンゲ草を配しています。町の歴史を感じる部分としてはクラブ英文名のODAKIです。

大多喜の中世の地名は歴史資料の中に小田喜(odaki)とみられる(推測)ので小田喜の城と呼ばれていたとされています。



八街ロータリークラブ

明治政府は軍馬育成地であった下総牧(小金・佐倉牧)の開墾事業を展開した。

当地域は、八番目の開墾地として「八街」と名付けられた。

クラブのバナーは開墾地を大地とした遠景をイメージし、4色で表現した。下から・大地・若葉・空・太陽



我孫子ロータリークラブ

わが我孫子RCのバナーは創立会員であり第9代会長であった故須藤十郎氏によってデザインされたものであります。

風光明媚な手賀沼のほとりに生い茂る「葦」をイメージして、創立会員22名が我孫子市のシンボルである沼を支えるように、手を組んでいるさまを表現しております。



千倉ロータリークラブ

千倉ロータリークラブは南房総市内の千倉、白浜、丸山、和田地区を中心に組織されており、いずれの地域も太平洋に面しています。

千倉ロータリークラブのバナーは、その太平洋の白波と海中の豊富な海の幸を探す「かもめ」の群れが描かれ、左上には日の丸が太陽を象徴しています。

海の碧さは、雄大な空の青さに繋がって一つとなっており、またその海と空は世界中のどこまでも繋がっている一体感を現わしています。

また、カモメは空高く舞う「自由」、太陽は世界を照らす「高潔性」を表しています。



新千葉ロータリークラブ

千葉市、桜木町及び若松町の当クラブ地区内に、日本最古の貝塚の一つと謂われる加曾利貝塚があります。

この貝塚は、北貝塚(直径130m)と南貝塚(直径170m)に分かれ、今よりおよそ4,500年前のものとして知られております。その広大な貝塚からは、土器・石器等多くの出土品が発掘されています。

この貴重な貝塚地区一帯を千葉市では加曾利貝塚公園と名づけ学問、教育、観光等に利用する工事が、着々と進んでおります。このバナーは、加曾利貝塚の代表土器である、堀之内式土器を日展審査員青木滋芳氏に委嘱して作ったものです。



行事予定(10月)

2014年10月6日(月)		地区大会記念ゴルフ会 キングフィールズG C
2014年10月15日(水)	15:00-18:30	第3分区分会 A・B IM 京成ホテルミラマール 第9分区分会 IM ホテル日航
2014年10月16日(木)	15:00-	第12分区分会 IM ザ・クレストホテル柏
2014年10月18日(土)	10:00-12:00 15:00-17:00	地区職業奉仕セミナー センシティタワー-東天紅 第8回ガバナー補佐会議
2014年10月25日(土)	12:00-12:30 12:30-15:30	アパホテル&東京ベイ幕張ホール 第3回地区指名委員会 ホテル ザ・マンハッタン
2014年10月26日(日)	13:00-17:00	第3回地区諮問委員会 ホテル ザ・マンハッタン 第8分区分会 IM 佐原商工会議所

決議23－34

社会奉仕活動に対する方針

(Policy Toward Community Service Activities)

社会奉仕に関する1923年の声明

次の声明は1923年国際大会で採択され、以後の国際大会で改正されたものである。

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。

この奉仕の理想の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリー・クラブの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

1) ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

2) 本来のロータリー・クラブは、事業および専門職務に携わる人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。まず第1に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。第2に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。第3に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。そして第4に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々が、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。

3) R Iは次の目的のために存在する団体である。

a) ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及。

b) ロータリー・クラブの設立、激励、援助および運営の管理。

c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、R I定款に掲げられているロータリーの綱領の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。

4) 奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリー・クラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。そこで、ロータリー・クラブの団体的行動は次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのロータリー・クラブも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それもなるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようなものを、後援することが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。

5) 各ロータリー・クラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの綱領を無視したり、ロータリー・クラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。そしてR Iは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする。

6) 個々のロータリー・クラブの社会奉仕活動の選択を律する規定は別に設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている。

a) ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリー・クラブは、市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行うこととすべきであり、商工会議所のある土地では、ロータリー・クラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活動すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民と一緒に、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事の上でその分を果たすべきである。

b) 一般的に言って、ロータリー・クラブは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。

c) ロータリー・クラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が報われるべきである。

d) ロータリー・クラブは、仕事の重複を避けるようにする必要があり、総じて、他に機関があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すようなことをしてはならない。

e) ロータリー・クラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリー・クラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用することのほうが望ましい。

f) ロータリー・クラブはそのすべての活動において、宣伝者として優れた働きをし、多大の成功を収めている。ロータリー・クラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事がロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、ロータリーは、事業を始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心をもっていると考えられるほかのすべての団体の協力を得るように努力すべきであり、そして、当然ロータリー・クラブに帰すべき功績であっても、それに対する自分のほうの力を最小限度に評価して、そのすべてを協力者の手柄にするようにしなければならない。

g) クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するもののほうがロータリーの精神によりかなっていると言える。それは、ロータリー・クラブでの社会奉仕活動は、ロータリー・クラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである。(23-34、26-6、36-15、51-9、66-49)。